

最優秀者提案内容(抜粋)

※この案はプロポーザル時の提案書であり、今後、この提案を基に設計を進める中で詳細を検討していくため、実際の建物はこの提案書のとおりになるとは限りません。

周辺環境と調和する、ランドスケープデザインのなされた、松江らしさを醸し出す庁舎

松江の風景に溶け込む「だんだん」

① 風景をつなぐ

→周辺との調和
だんだんボリュームの採用

② まちをつなぐ

→まちに寄り添う
「だんだん」

③ 人をつなぐ

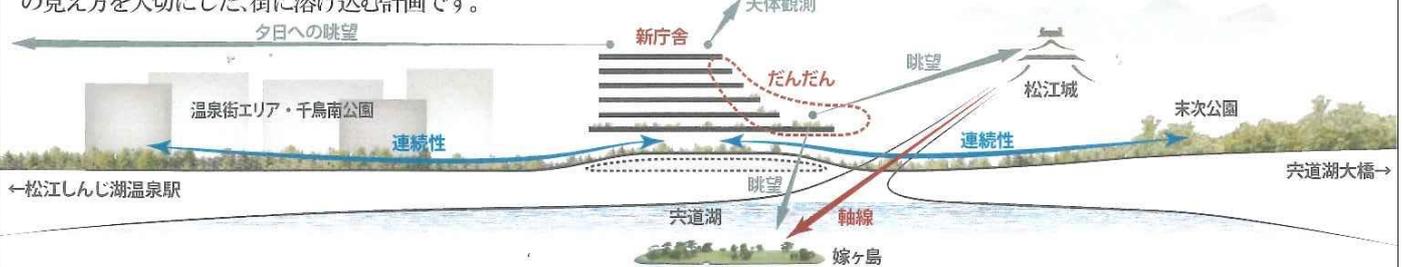
→道路 + 公園の
一体利用

④ 歴史をつなぐ

→歴史を未来へつなぐ

① 風景をつなぐ — 周辺との調和 だんだんボリュームの採用 —

低く「つくばう」ように街並みに沈み込み、末次公園や宍道湖になだらかに連続した風景を創ります。城山からの軸線や宍道湖大橋や白潟からの見え方を大切に、街に溶け込む計画です。



② まちをつなぐ — まちに寄り添う「だんだん」 —

「だんだん」は宍道湖畔を眺める絶好の眺望の場を提供します。また、夏の夕涼みなどの市民の憩いや市民活動、職員の休息、災害時の避難など、様々な利用されることでまちの縁側となります。



宍道湖に映る新庁舎



③ 人をつなぐ — 道路 + 公園の一体利用 —

・1階にある「下のだんだん」は大きな階段によって、東側道路に対して大きく開かれた広場です。車の侵入を制限することでお祭りやイベント時には、一体的な利用が可能となります。



しんじ湖温泉駅とつなぐ

・立体駐車場を平面駐車にすることにより松江しんじ湖温泉駅方向に広がりを持たせて、アプローチを豊かにすると同時に、ゆったりとした庁舎の西側の顔をつくります。また、将来の増築の可能性も担保できます。

④ 歴史をつなぐ — 歴史を未来へつなぐ —

・城下町松江の武家文化の歴史を新庁舎の屋並みと黒庇の連続のような外観で未来につなぎます。



立体回遊式庭園

・敷地は末次公園の豊かな緑と、宍道湖や四十間堀に繋がる水路に面した緑と水の「際」にあります。「だんだん」はクロマツやヒトツバタゴ、また、センダンやツバキ、モミジ、など市民に親まれてきた樹木によって豊かな周辺環境と一体となり、あたかも立体的な回遊式庭園となります。

松江らしさを活かす

・水と緑に囲まれた松江特有の自然の変化や宍道湖などの豊かな自然環境とそれに伴う環境の変化を活かします。光、風、水、など自然エネルギーの有効活用はもちろん、夕陽の色を受けて変化する建築壁面、植物の紅葉や花による変化、風向き、気候による人の動きなど常に変わり続け、そして常に新しい庁舎を目指します。